

◎ 栄養部門

1 行事及び内容

(1) 研究委員会

- 第1回 平成30年8月20日（月）研究会に向けて指導案検討（栖本小学校）
第2回 平成31年2月 1日（金）年間反省とまとめ（教育会館）

(2) 研修会

ア 内容

授業研究会

平成30年10月25日（木）天草市立栖本小学校

第6学年 家庭科「くふうしよう おいしい食事」

授業者 T1 口脇 大作 教諭

T2 玉木真利子 栄養教諭

指導助言 熊本県立教育センター

塩村 正勝 指導主事

事後研 授業研究会

指導助言

まとめ

参加者数 栄養教諭・学校栄養職員18名、教諭 4名、その他 2名 計 24名

イ 指導助言

- ①食育の推進について県では、朝食摂取の割合を出しているが、27年度に対して昨年度は落ち込んでおり、毎日朝食を食べる子どもが減少し、なかなか90%を超えない現実がある。食育の資質を高める必要性があり、その中で栄養教諭等の立ち位置が大事である。
- ②栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育を配布されているので、栄養教諭が配置されていない学校においても、それぞれの学校の状況に応じた冊子の内容を目指した取り組みをお願いしたい。
- ③研究主題・授業内容について授業の中で教師の願いと子どもの思いがあるのでズレを修正していくことが大事であり、食育を含めてどの授業でも考えていく必要がある。
- ④目標→達成→評価の授業から、主題→探究→表現の授業へ授業転換を図る。
- ⑤学習指導要領との関連を把握し、指導内容の徹底を図る。
- ⑥文科省では食育を推進する中で気をつけたいこととして、発達段階に応じた内容だったか、学校総体で行っているか、家庭との連携をとりながら行っているか、知識・理解中心の指導になっていないか、教えた内容が多くなりすぎていないかなど言われている。
- ⑦授業の参観の仕方の在り方について、グループに張り付いて参観したら、どのように共有の学びができていっているのかがわかる。
- ⑧食育は大事といわれながらもデータも上がらないし、なかなか普及していない現状がある。栄養教諭等の先生だけでなく、教諭の先生方にも協力いただきながらすすめてほしい。いろいろな資料があるが、栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育やスーパー食育スクールの報告書を参考にしながら学校総体で食育に取り組んでほしい。

2 来年度への志向

- ①今年度も計画通りに進めることができたので、次年度も1学期中に学年、教科・単元を決定しておく。
- ②研究委員会で指導案検討を行う。
今年度は授業までの期間が長く空いたため、授業案を直前まで検討していただいた。
- ③研究授業を行う場合は、栄養教諭単独ではできないので、学級担任や教科担当との連携が必要である。研究授業実施校の校長先生のご理解とご協力に感謝している。

